

技術アドバイザリー国内委員会（第 8 回）及び専門委員会合(合同開催) 議事録

1. 日 時 2006 年 10 月 16 日（月）10：00～13：15
2. 場 所 原子力発電環境整備機構 地下 1 階会議室
3. 出席者

委 員：大江委員長，出光委員，井上委員，梅木委員，大西委員，鎌田委員，河西委員，岸野委員，木村（学）委員，木村（英）委員，坂井委員，佐藤委員，杉山委員，高橋委員，田中委員，徳永委員，中村委員，平田委員，吉田委員（委員長以下 50 音順）

原環機構：伏見理事長，清野理事

事務局：北山技術部長，二口立地広報部長他

4. 配付資料

- 資料 1 第 7 回技術アドバイザリー国内委員会議事録（案）
- 資料 2 技術アドバイザリー国内委員会の今後の進め方
- 資料 3-1 最近の技術業務の紹介 構造化アプローチ
- 資料 3-2 同 概要調査地区選定に向けた取り組み～文献調査の進め方～
- 資料 3-3 同 応募区域における処分場概念構築に向けた取り組み～ 操業システム～
- 資料 3-4 同 ～ 処分場設計演習～
- 資料 3-5 同 安全確保に向けた取り組み～リスクコミュニケーション～
- 資料 4-1 その他の課題，情報など～ TRU 制度化の影響～
- 資料 4-2 同 ～ 安全規制関係の近況～
- 資料 4-3 同 ～学会・雑誌等への発表（2004～2006 年度）～

5. 議事概要

5.1 前回議事録の確認

前回議事録（案）（資料-1）を紹介し，了承された。

5.2 最近の活動状況

最近の立地・広報活動について事務局が紹介した。主な意見は以下のとおり。

- これまでの経過を聞くと，立地を検討する周辺市町村の理解をどのように獲得するかが鍵になっているように思われる。これまでの状況をよく分析し適切な対応を講じることが重要である。

5.3 技術アドバイザリー国内委員会の今後の進め方

今後の委員会での審議の進め方について事務局から説明がなされた。主な意見は以下のとおり。

- 今後の議論において，委員間でもしも複数の異なる意見や評価の分かれるグレーな部分が生じたとしても，委員会としては全て専門家の意見として提言していく。最終的にそれらを考慮して処分場を安全に造るのは機構の責任である。

5.4 最近の技術業務の紹介

最近の機構での技術業務のうち 構造化アプローチ , 概要調査地区選定等に向けた取り組み , 応募区域における処分場概念構築に向けた取り組み , 安全確保に向けた取り組みについて , 説明した。主な意見は以下のとおり。

- 機構の「構造化アプローチ」の考え方を実務に適用していくことは重要なことであり , 適切な品質マネジメントの下 , 外部機関のレビューも考慮しつつ進めてほしい。
- 概要調査技術の実証のボーリング調査に関し , 今回のボーリング掘削位置選定においては , 種々の制約条件から必然的に位置が限定されたことは理解できるが , 本来の概要調査としては , どういった位置選定が望ましいかをシミュレートすることも重要である。
- 日本原子力研究開発機構では , 機構の「要件管理システム」で整理される「要件」に適切に対応できるよう「知識管理システム」を整備していく予定である。
- 処分場設計等に関する演習は , 実際に文献調査の情報だけからサイトとしての適格性を判断しなければならない場合などに大変重要になる。このような演習から如何に意思決定に結びつけるかを意識しつつ今後も継続して演習すべき。
- リスクコミュニケーション (以下 , 「RC」という) の検討では , RC マニュアルや RC 支援システムの構築が予定されているが , 是非議論・助言したいので , 精力的に検討を進めてほしい。

以上